

ISO20022移行に伴う商工中金の対応

- 本紙では、外国送金において銀行間の電文送受信インフラとして利用されている、SWIFT(国際銀行間通信協会)の新しい電文規格であるISO20022(以下「ISO」)の内容と、商工中金の対応について説明します。
- **ISO移行は、今後ともお客さまが円滑・迅速な外国送金を継続していくために必要不可欠であり、当金庫でも以下の通り取り組んでいきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。**



現在の外国送金の課題とISO移行

- 外国送金で使用されているSWIFT電文のフォーマットは約40年間大きな変更がなく情報量増加への対応が難しいため、電文のフォーマットを刷新し、また世界中で統一することで、大量の送金データを迅速にシステム処理できるような体制(ISO)へ移行するものです。

外国送金を 取巻く状況

- 貿易量の増加やグローバル化の進展により、**外国送金の件数は増加傾向**にあります。
- 一方で、北朝鮮の核開発に対する制裁などのマネーロンダリング対策として、**送金にかかる確認項目が増加**しています。

現行の外国送金 の課題

- 現行の外国送金では、各国独自の様式が混在しており、**人の手により送金内容を確認**し、打ち換える必要があるため、**大量のデータを迅速に処理することに課題**があります。
- フリーフォーマットの入力欄が多く、住所や会社名などを高い精度で迅速にシステムチェックできず、時間がかかっています。

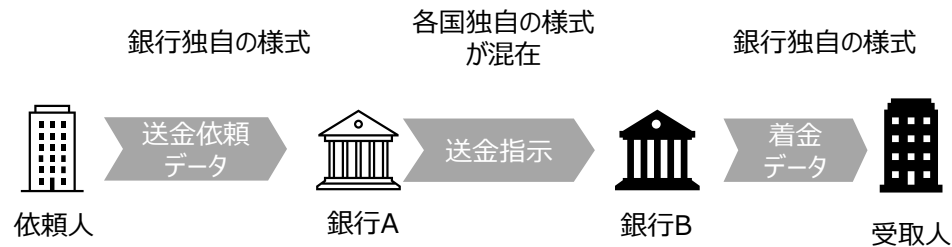
ISOへの移行

- 外国送金の件数、1件当たりの情報量の増加が見込まれる中、引き続き迅速な処理を行うべく、**電文形式を統一し、大量の情報をシステムにより迅速に処理できるようにする**という趣旨からISOへの移行が決定されました。
- 外国送金に関して、各金融機関は2025年11月までに、現行のフォーマットであるMT(メッセージタイプ) から、新フォーマットであるMX(XML(拡張可能マークアップ言語) ファイルフォーマット) への移行が求められています。

【効果①】送金データのフォーマットが統一 ⇒ システムによる迅速なデータ処理が可能に！

現状

- 電文形式が統一されておらず、伝送時に人の手で打ち換えるなどして対応。
⇒送金処理に時間がかかる



移行後

- 電文形式を統一することでシステムによるデータ処理が可能に
⇒迅速な処理が可能に



【効果②】電文フォーマットの刷新 ⇒ 電文の構造化によりマネロンチェック（システムチェック）が円滑・迅速に！

現状

- 電文が構造化されておらず、フリーフォーマットの入力欄が多い電文形式。
⇒送金情報のマネロンチェック（システムチェック）が高い精度で行えない。
- 例えば受取人欄だと、一つの欄に会社名、住所などまとめて記入するため、どこが受取人名か？どこか都市名か？などがシステムで読み取れない。

59:/ 受取人情報
UKETORININ LTD.
123TOWER, GREEN STREET
LONDON, EC1X 1XX, UNITED KINGDOM

移行後

- 例えば受取人欄だと、受取人名、国名、都市名、、、など入力項目を分割・構造化することで、高精度で迅速なシステムチェックが可能。

```
<Cdtr>
<Nm> UKETORININ LTD. </Nm>
<PstlAdr>
  <StrtNm> GREEN STREET </StrtNm>
  <BldgNm> 123TOWER </BldgNm>
  <PstCd> EC1X 1XX </PstCd>
  <TwnNm> LONDON </TwnNm>
  <Ctry> GB </Ctry>
</PstlAdr>
</Cdtr>
```

- 従来、お客さまからの仕向外国送金受付方法は、外為WEB、もしくは店頭・FAX（紙ベース）としていましたが、ISO移行により、以下のように変更します。
- **店頭・FAX（紙ベース）の受付は2025年1月6日以降受け付けることができません**ので、ご注意ください。

